

郷社

伊和都比賣神

本社は御崎伊和都比賣神社とも○播磨御崎明神とも稱す、○式内御一に三に作る、創建年月詳ならず、細帳播磨鑑に云く、

「縁起不詳、此村近代に始り、土人皆他所より來て住居す、故に其古へを知るものなし、昔の社壇は大園に在、僅の祠也、天和の比、今の地に移す、大園は今の鳥井の東の大岩を云ふ、」

と、延喜の制小社に列せられ、播磨國內鎮守大小明神社記には明神小社とあり、明治七年二月郷社に列す、社殿は本殿幣殿拜殿を備へ、境内地は千六十坪官有地第一種あり、風光に富む、式内神社考に「山内廣大にて海面に出張る、南方神前の岸下、海水漫々として松根を洗ひ、風景佳絶」と讚せり、又播磨鑑に「此邊前々は小豆島家島、右は坂越那波の冲室津の山迄見ゆ、備前の浦も見え渡り絶景也、出崎と歌枕に出たるは此所也」と見ゆ。

境内神社 惠毘須社

例祭日 十月十三日

會計法適用
指定年月日

神饌幣帛料供進
指定年月日
氏子戸數 五百八十戸
崇敬者員數 二千五百二十七人

○兵庫縣播磨國赤穂郡坂越村大字坂越

郷社

祭神 天照皇大神

春日大神

大避神社

大避大神

創建は醍醐天皇延喜年間なり、但、神社考に云く、

「秦河勝者、化生乎欽明天皇之御宇者也、天皇一夕夢有童、言曰、我是秦始皇之後身也、請爲臣矣、時初瀬川大漲、有甕流來、有一男子、天皇養之、賜姓曰秦、十五歲授大官位、而奉仕五朝、以至推古女主之時、豐聰太子、監國祭神、河勝因作六十六番之面弄假貌矣、名之曰申樂、河勝遂乘舟、著播磨岸、土人聚觀、其形、非常之人、靈威可畏矣、共謀立神祠祭之、曰大荒明神、」

と、又播磨名所巡覽圖會に云く、

「舊傳云、當郡は秦川勝の采地なり、故に入鹿の難を避て爰に箕裘し、時々矢野の山中に獵して、三本率都波の故事ありと云へり、實に川勝が生地なるべし」

と、又播磨鑑に、

「又一説に、皇極天皇二年蘇我入鹿聖德太子の子山背王と隙有て是を攻殺す、河勝山背王と相親しきを以て入鹿是を疾む、翌年三月東國富士川の邊に惡蟲生ず、所の民是を常世神と名付て尊び祭り、都鄙の人民を害する事有、河勝是を制禁し、其功多し、入鹿又是を惡む、河勝難儀の身に及ばん事を懼れて、竊に都を出